

製品名: 切断血漿カリクレイン HC (R390) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab09027**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	45kDa

抗原情報

遺伝子名	KLKB1
別名	KLKB1; KLK3; Plasma kallikrein; Fletcher factor; Kininogenin; Plasma prekallikrein
遺伝子 ID	3818.0
SwissProt ID	P03952
免疫原	抗血清はヒト KLKB1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 341-390

背景

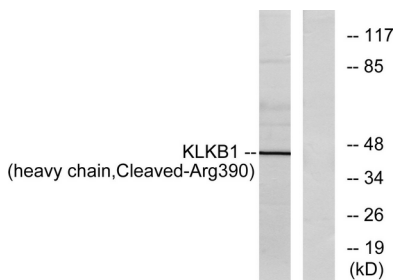
この遺伝子は、血液凝固、線溶、キニン産生、および炎症の表面依存性活性化に関与する糖タンパク質をコードしています。コードされているプレプロタンパク質は、高分子量キニノーゲンとの非共有結合複合体として血漿中に存在し、活性化凝固因子 XII を介した

タンパク質分解処理を受け、重鎖と軽鎖からなるジスルフィド結合ヘテロ二量体セリンプロテアーゼを生成します。この遺伝子の特定の変異は、プレカリクレイン欠損を引き起こします。選択的スプライシングにより、異なるアイソフォームをコードする複数の転写バリエーションが生成されます。[RefSeq 提供、2016年1月]、触媒活性: (ヒト) キニノーゲン中の Lys-|-Arg および Arg-|-Ser 結合を含む Arg-|-Xaa および Lys-|-Xaa 結合を選択的に切断し、ブラジキニン遊離する。、疾患: KLKB1 の欠陥は、プレカリクレイン欠損症 (PKK 欠損症) [MIM:612423] の原因である。これはフレッチャー因子欠損症とも呼ばれる。この疾患は血液凝固障害である。、機能: この酵素は Lys-Arg および Arg-Ser 結合を切断する。負に帯電した表面に結合した後、この酵素は相互作用により第 XII 因子を活性化する。また、高分子量キニノーゲンからブラジキニンを遊離させ、プロレニンをレニンに変換することでレニン-アンジオテンシン系において役割を果たす可能性がある。、類似性: ペプチダーゼ S1 ファミリーに属する。、類似性: ペプチダーゼ S1 ファミリーに属する。血漿カリクレインサブファミリー。、類似性: ペプチダーゼ S1 ドメインを 1 つ含む。、類似性: アップドメインを 4 つ含む。、サブユニット: 酵素前駆体は第 XIIa 因子によって活性化され、第 XIIa 因子は分子を活性部位を含む軽鎖と、高分子量キニノーゲンと結合する重鎖に切断する。これらの鎖は、1 つ以上のジスルフィド結合によって連結されている。、

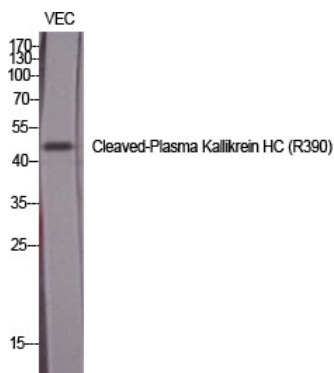
研究分野

補体と凝固カスケード;

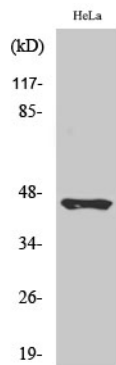
画像データ



KLKB1 (重鎖、切断型 Arg390) 抗体を用いた HeLa 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



切断された血漿カリクレイン HC (R390) ポリクローナル抗体を 1: 1000 に希釈して、様々な細胞をウェスタンブロット分析した。



切断された血漿カリクレイン HC (R390) ポリクローナル抗体を 1: 1000 に希釈して HeLa 細胞をウェスタンブロット分析した。